

＜ 今日の説教のポイント 創世記 40章 ＞

信仰者として、ヨセフ物語を素直に読んで、素直に学ぼう！

①思わぬ所で、思わぬ事が起き、思わぬ展開に。私たちの人生も！

ヨセフを見ていると「一難去って、また一難」という言葉が思い浮かびます。しかも今回は監獄に入れられたのですから最悪です。しかし、その先に、またまた、思わぬ展開が待っていたのです。ヨセフはと言うと、そんなこと、あまり気にしていないように思えます。信仰者はここから素直に学んだらいいのではないのでしょうか、「人生、思わぬ所で、思わぬ目にあっても、そんなに悲観しないでいい。むしろ、それがなかったら出会わなかった人と出会え、それがなかったらできなかった経験ができたと思えばいいのだ。自分が思い描き、その通りに進む人生より、何が起こるか分からない波乱万丈の人生の方が面白い、神様はそこにもちゃんと道を備えて下さっているのだ」、そう思ったらいいのではないのでしょうか！ ヨセフ物語はそんなことを思わせてくれます。

②ヨセフには自信がある？ 神様の力が自分に注がれることを！

見た夢に悩む給仕役と料理役にヨセフは言います、「**解き明かしは神がなさることではありませんか。どうか私に話してみてください**」(8)と。神様の力を信じていると同時に、その神様の力が自分に注がれるかもしれない、そんなことないとどうして言えようか、そう思っているヨセフです。そしてヨセフは夢を解き明かすことができたのです。神様の方を向いて、神様と一つになって生きる、そこに神様の御旨を理解できる歩みが待っているのです！ そのような生き方が私たちに用意されているのです！

③一難去って、また一難。そこに神様の恵みを見る！

ヨセフ物語の面白いところは、ヨセフが夢を解けたことがすぐに幸いにつながってこないところです。一難去って、また一難。それも恵みなのです！ なぜなら、それは私たちの人生にも当てはめられることだからです！ 苦難の中、父なる神様をどこまでも信じ通したイエス様。その先に復活が用意されていました。ヨセフもそうです。だからこそ私たちも、苦難恐るに足りず、なのです！